

介護する人も、介護される人も、怒っているのだ！

厚労省の前に集まったみなさん、そして厚労省のそばを通りかかった東京の皆さん、こんにちは。

私は神奈川県でヘルパーをしています。仕事は障害者の自宅を訪問して、家事の援助をしたり、いっしょに出かけるなど、さまざまな介助をすることです。今日はみなさんに、介助・介護の仕事、労働環境ってどういう状況へと作られていってしまっているのかについて、お話ししたいと思います。

介助の仕事は、大変だとか、賃金が低いとか、応募者が全然来なくて常に人数不足で過重な労働だ、などとかの話は、皆さんなんとなく世間で言われているのを知っているのではないのでしょうか。また、それもあって、日本のいろいろな場所で介助事業所の倒産が加速しています。神奈川県にもすでに、事業所が閉鎖・撤退して一つも残っていない自治体が複数あります。住んでいる場所で介助サービスつまり社会的な福祉を利用できず、一緒に住んでいる家族の介護をするためにやむなく、いったん仕事に就いた人も、介護離職をしなければならなくなった、という話も、皆さんの周りで増えてきてはいないのでしょうか。また、ニュースでは継続的に、事業所のなかでの慢性的な虐待事例が明るみになっていたりしています。グループホームの利用者の食事を極限まで削って、満足に食べられないのに、食材費を過徴収していたケースも問題になりました。わたしたちは年老いた時に、安心して、暮らしていけるのでしょうか？いま年老いている人たちと、今日と明日どの様にかかわっていけばよいのでしょうか？家族に虐待されずに、家族を虐待せずに、生きていけるのでしょうか？

お金は頼りになるのでしょうか？

石油がなければ、お風呂やトイレで利用者さんに触れるための手袋だってつくれません。

今日、私が話すことは、福祉の仕事が特別大変だという話ではないです。福祉の現場でモラルが崩壊しているという話でもありません。言いたいことは単純に、このような状況は、私たち自身が、自分たちの生活をメンテナンスすること、ケアすることに対して、非常に軽んじてきたこと、社会的に低い地位に置いてきたことの結果だという事です。自分では考えたくもなく、向き合いたくもないので、「押し付けたい」という考え方で仕事をしたり、社会づくりをしているからです。そのような、差別的な考え方の延長で、報酬の制度設計などを間違えてきたからです。ケアする人たち、ケアされる人たちから批判されている内容を、政府が、法律が、そして私たちが変わらずに来ているからです。

問題があるのは、介助現場にたいして、十分な予算をつけないからです。劣悪な労働環境をタイミーなどによるスポット派遣から来た方で埋めることに依存せざるを得ない状況にどんどん追い込み、その場しのぎの対応を現場に強要しているからです。

まともな待遇で給与を全員に払えない問題をごまかすために、意味のないキャリア制度作りを強要して、無理に労働者の中の差別を正当化しようとするからです。事業所に安定的な運営を危ぶませることで、不公正な運営や、利用者や労働者に対して搾取を行うことの心理的なハードルを下げています。

良心的な運営をする事業所ほど、経営が成り立ちづらくする状況を作って、福祉の量だけでなく質も悪化させています。

単純に報酬単価を上げなければいけないと知っているのに、処遇改善加算制度を作って、まったく状況を改善しない書類作業や無意味な取り組みを強要して、事業所も労働者も疲弊させています。介助者全員の待遇を改善する予算を出したくないからと、金をはらう職員と払わない職員を作り出し、その理由を介助現場自体に考えさせて、職場にハラスメントが起きやすい状況を加速させています。

私が今日来たのは、厚労省に対して、東京都という特別な場所を構成しながら暮らしていこうとする皆さんに対して「ケア現場の苦しさをわかってほしい」などというつもりで来たものではありません。介助労働者は、そして介助利用者は、怒っているのだということを証明しに来ました。

世の中と制度が福祉の現場に押し付けている「虐待が起きるのは、モラルがないから、指導が足りないから。現場が回っていないのは、改善がたりないから」という、何の状況変化ももたらさない説教しぐさに対して、「暴力をふるっているのは、そのような制度を作り、それを都合よく利用しているおまえ達だ」と突き返しに来ました。

「自分はまっとうに働いている社会人である」という立場から、世の中の面倒や矛盾は誰かに押し付けておきたい、それが日本という「国家・国民」の問題ないありかたというものなんだ、という思考停止の「解決」もどきに対して、それが私たちの世の中を、周りの人の心を、暴力で、差別で、ハラスメントで、不誠実でいっぱいにしてしまっているのだと、あなたたちの逃げ場を消しに来ました。

私たちに必要なのは、問題を押し付けていくためにケアワーカーを蔑ろにする社会ではありません。世の中の矛盾は、みんなで持ち合い、いやなことを押し付けて初めて社会人のふりができる、そういうわたしたちの世の中の仕組み自体を、変えていきたいと思っています。

世の中に生まれてきて、納得して生きて、ごまかさずに人生を作りたい皆さん、いっしょに考えていきましょう！ （全国一般東京南部組合員・横浜英町）

（26 けんり春闘第 2 波統一行動・厚生労働省前での発言から）